

2月定例会 予算案に対する反対討論本会議 山口清明議員(3月22日)

保育料・国保料などの負担増の一方で 富裕層減税やムダな事業。こんな予算はダメ

3月19日に2013年度予算案の採決が行われ、山口清明議員が反対討論を行いました。概要を紹介します。

大企業と富裕層優遇の5%減税継続の予算

山口議員は、大企業と富裕層を優遇する市民税5%減税を継続する予算であり、市民に犠牲を強いる施策を次々に強行する、新たな税金の浪費へ危険な一歩を踏み出すとの理由で市長の予算に反対、また自公民提出の修正案についても、保育料値上げを撤回は当然だが減税を容認し無駄を放置している、と反対しました。

市民・高齢者の可処分所得は大幅に減少

山口議員は、減税の害悪について列挙し、「負担増に苦しむ市民にとって何の救いにもならず、経済的格差を助長するだけ」と指摘しました。

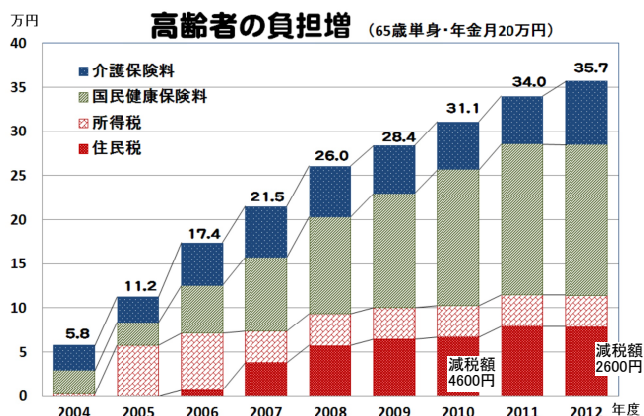
個人減税の最高額は517万円。17億円の所得がある人にどんな消費誘発効果があるのか。減税の直接的対象者は108万人。市民の半分です。法人市民税も中小企業は赤字企業が大半。大企業だけが国の減税も相まって伸びているだけです。

高齢者は大打撃、65歳・年金月額20万円の人の負担は、老年者控除の廃止や介護保険料などの値上げで10年前の5万8千円から、35万7千円になりました。この4年間だけでも4万6千円増えたのです。

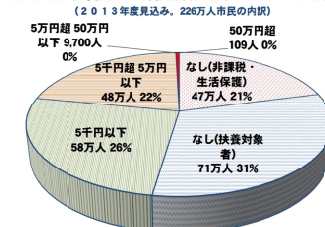
子育て世代は、年少扶養控除の廃止で27万世帯に平均1万8千円の負担増、その上保育料を平均1万1千円も値上げしようとするのです。

「行革」の名で市民犠牲次々

新年度予算は、保育料の値上げや国民健康保険料の負担増だけでなく、学童保育助成への助成＝負担緩和



個人市民税の減税額区分ごとの人数



個人市民税の減税額上位5人

(2012年度見込み)

氏名	減税額
Aさん	517万円
Bさん	443万円
Cさん	423万円
Dさん	410万円
Eさん	381万円

措置の廃止、公立保育園の廃止・民営化の推進、民間保育所運営費補助金の削減、障害者福祉施設運営費補助金の削減、志段味図書館への指定管理者制度の導入など、市民サービスと行政責任を後退させるものが目白押しです。

巨大地下道や金城ふ頭開発など新たな浪費へ

リニア中央新幹線を前提にした「名古屋改造」の検討や笹島に巨大地下通路の建設などは新たな税金のムダ使いにつながります。市長選挙をまえに予算計上を見送った名古屋城天守閣の木造再建、SL博物館構想なども浪費拡大につながります。

金城ふ頭の開発も、テーマパーク進出のための集約駐車場の整備などに約216億円の事業費を予定しています。民間がやる仕事です。

山口議員はこうした反対理由の上で、市長に提案した予算組み換えを実行するよう迫り、予算案と自公民の修正案に反対しました。減税日本は修正案に反対。他は修正案に賛成しました。

